

地域限定情報誌 創刊

じぞう通りから発信

国泰寺町、小町、富士見町。その間を走る通称「じぞう通り」の周辺にスポットを当てる超限定地域情報誌「GZO」を創刊しました。「ジゾウ」と読んで、親しんでみてください。わずか0.3平方キロ。そんな狭いところにネタがあるのか、と心配されるかもしれませんが、編集部はそこにかかわる人、店、催しなどの話題を掘って掘りまくります。その結果、じぞう通りが街の話題になり、賑わいがあるればありがたい、と考えています。さて、どんな面白情報が飛び出してくるやら、乞うご期待!

編集室は毎日文化センター広島に置いています。スタッフは、毎日文化センター広島の実践講座「コミュニティーペーパー作り」の受講生。受講生たちが取材にかけ、写真を撮り、記事を執筆します。さらにプロが使うコンピュータソフト「イラストレータ」を使って編集・制作。「連の工程

にはもちろん講師がいます。取材・撮影の担当は毎日新聞の社会部、特別報道部、学芸部などで20年間記者をしてきた毎日文化センター広島館長の西村浩一。編集・制作は、レイアウトや見出しなどをすべてコンピュータ画面上で行うDTP(デスクトップパブリッシング)によ

って作成し、富士見町にあるデザイン事務所「ヴァンスタック」の代表わたなべゆうじが教えます。「なんで受講生が取材したり、編集したり、せにやなんのか」と疑問を感じる方もあるかと思いますが、そこが実践講座たる所以。実際、この方が確実に技術が身につきます。

正しく歩いてダイエット



キングウォーキング
ウォーキング
公認インストラクター
香月梨江さん

悩んでいたもので、とりあえず軽い気持ちで申し込めました。そのレッスンはデューク更家本人が教えていた。エクササイズはもちろん、そこでのおしゃべりがまた楽しかった。元々、波動や気功のような世界が好きだった。今はパワーストーンと呼ばれる石に小学生のころから惹かれていたという。「古神道に通じたデューク先生はそういうことを知り抜いていた。やっと分かってくれる人たちに会えた。自分の生き場所を見つけた思いでした」と振り返る。

「おへんの位置を高くして、踏み出した足のかかとが着地するときヒザが伸びている、そんな歩き方を指導します。心肺機能が増し、脳が活性化。結果、ダイエットにつながります。私もO脚がすぐに解消し、アゴからくる肩こりもなくなりました。日本酒好きで、夫から「ザルではなく杓、引つかかるものがない」と言われる酒豪。「デューク式は仕事であり趣味。もっと多くの人にこの良さを知ってほしい」と筋だ。

「自分の体が変わったって実感できる」。みごとなプロポーションと、こんがり日焼けした健康的な笑顔。しかしデューク式と出会ったまでは体が弱かったという。友達と買い物に出ても、すぐに休憩したくなる。ある日医者に行くと、足に余分な骨があり、ひどい頸関節症と診断された。

8年前、たまたま情報誌で見たのが、デューク式だった。「実はO脚にも肉を柔らかくし伸縮運動をスムーズ

■デューク式ウォーキング
エクササイズ講座
一時間
第2、4木曜日
15:30~17:00
19:00~20:30
一受講料
15,750円/3ヶ月
お申し込みは、
毎日文化センター広島まで
電話082-245-1414

コンピュータは、必要に迫られ、または目的を持った実践でこそ身に付くもの。センターでは、スタッフ(つまり受講生)を募集中です。小さなエリアですが、いろいろな人と出会い、その話に感動し、文章やコンピュータの技術を磨き、ひいては地域貢献になるといふ、この講座にあなただけ参加してみませんか。「面白い話あるよ」とか「こんなイベントするんだけど」という情報提供もお待ちしております。



コンピュータは、必要に迫られ、または目的を持った実践でこそ身に付くもの。センターでは、スタッフ

■実践講座
【コミュニティーペーパー作り】
一時間
第1・3土曜日の
10:00~12:00
一受講料
15,750円/3ヶ月(教材費別)
お申し込みは、
毎日文化センター広島まで
電話082-245-1414

じぞう通り探訪

「XXX」は現代版鬼瓦?

映画の世界でトリプルXといえば、何やらいかかわしいことになってしましますが、じぞう通りにはまさにXが縦に3つ並んだようなビルがあります。鉄筋コンクリート5階建て。1回に美容室が入り、2、3階は賃貸住宅、4、5階に店主が住みます。設計者は西十日市町に事務所を構えるゼロ建築設計事務所の建築家、橋本一彦さん(50)で「目立つ建物に



物騒になってきたので、防犯的な意味も込めました」とのこと。要するに鉄筋コンクリート建築版の鬼瓦?。じぞう通りを歩くと、ふと、見上げてくださ

講座感想

ドキドキの取材体験

生信聖子



人見知りの私としては、取材などというところが自信があまりありませんでした。

ただ、人に対してのおじしなないスキルが身につけばと思いい、挑戦の気持ちで講座を受けました。案の定、初めて取材した時はポイントのずれた質問ばかりであがってしまい、そんな私でもきちんと話をしてくれました。取材先の方、手伝ってくれた先生に感謝です。

文章を書くことは昔から好きでしたのでなんとかなると思っていました。取材の記憶が新鮮なうちに書いたのはよかったです。分かりやすい文章にするように教えてもらいました。抽象的で自分本意な文章ではいけないと感じました。多くの人に見てもらいたい文章を書くことは今までなかったように思います。新聞のルールも初めて教わりました。M&Eは憧れでした。M&Eが新しく購入され、さわれると思った時はうれしかったです。これからはじっくり教わるつもりです。もっと会員さんが増えてたくさん記事で紙面が埋まるといいと思っています。

というのが施主からの注文。木造建築で構造を強くするために使われる筋交いをデザイン化してみました」と語る。

じぞう通りに立つと、黒とオレンジの3つのXに見下ろされ、少々圧迫感。「もう一つ、このデザインには没入禁止の意味もあります。世の中

「実際にフリーペーパーを出す?」何事も実践を伴わないと身につかないのは、今までの経験で身に沁み込みました。でも講座でコミュニティー紙を作るとは! (受講料を払って、時間と、体力を使って、こんなカルチャーセンターってあり?)

しかし取材(先生の同行つき)をして、いざ記事を書こうとすると、質問の甘さ、認識の甘さを後悔。取材の仕方、写真の撮り方、記事の書き方をアドバイスしてもらいました。思い込みは良くないけど、出来上がった紙面を想像してインスピレーションなり、撮影をしなければいけないのが実感。紙面構成用の「イラストレータ」、「こんな面白いソフトがある

なんて大発見。前回教わったことを次には忘れていた始末(どうやら講師陣、受講生の中で私が一番年上らしいですが、これを使いこなせたらもっとおもしろいはず。「時間のあるときは(センターに来て)自由に練習していいですよ」と言われていますが、なかなか時間がとれないのが残念。とりあえず、好奇心を満たすには最適な講座です。

■個展・催しのご案内
毎文の陶芸講師
占部さんが個展
11日から袋町で
陶芸家で毎日文化センター広島島の講師を務める占部康浩さんが10月11日から、中区袋町7の18のギャラリー1718(電話247-1010)で個展を開く。16日まで、時間は11~20時(最終日は18時)。「お茶めな器展」と題し、急須セット(急須、湯冷まし、湯のみ6点、茶たたく6点)・写真・メインに醤油さしやミニチュア急須セットなどを展示。

